



第2次さぬき市男女共同参画プラン(改訂版)

2019(令和元)年度から5年間の基本方針を策定しました。

さぬき市が目指す目標

自分らしく、ともにいきいきと生きることができるまち

家庭では

心や時間などにゆとりが生まれ
生活が充実します



働く場では

採用や待遇などで格差がなくなり
みんなが働きやすくなります



地域では

性別や年齢など多様な立場の人たちが
共に暮らすことで地域の絆が深まります



キーワード

一人ひとりが意識を変える

誰もが認め合えるまちづくり

さぬき市が2017年に行ったアンケート調査では、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という性別によって価値観を押しつける考え方に対する反対と回答するなど、自分の個性や能力を生かすことを大切に思う市民が増えていることが明らかになっています。

誰もが認め合えるさぬき市になるためには、性別に問わらず一人ひとりの価値観やライフスタイルを認め合い、尊重する意識を育むことが大切です。

誰もがあらゆる分野で
活躍できるまちづくり

近年、家庭や育児、介護などをしながら働き続ける女性が増えていますが、多くの人が仕事と生活の両立(ワーク・ライフ・バランス)に悩んでいます。これは、少子高齢化といった社会の変化によって、これまでの働き方がマッチしていないことが原因の一つとされています。

誰もがあらゆる分野で活躍できるさぬき市になるためには、これまで「当たり前」だと考えてきた働き方を見直す意識を持つことが大切です。

誰もが安心して暮らせるまちづくり

配偶者や恋人からの暴力をはじめ、セクハラやパワーハラ、虐待は、すべて生命に関わる重大な人権侵害(犯罪)であり、絶対に許されるものではありません。しかし、人権侵害の加害者と被害者は、その事実に気づいていないこともあります。

誰もが安心して暮らせるさぬき市になるためには、地域に暮らす私たち自身が、ちょっとした周囲の変化に気づく意識と、支援の手を差し伸べる勇気を持つことが大切です。

※ 詳しくは、さぬき市ホームページ[<https://www.city.sanuki.kagawa.jp/executive/cooperate>]をご覧ください。 ⇒⇒⇒



男女共同参画につながる市民企画事業 ~男女共同参画推進活動事業~

男女共同参画意識の変化につながる市民主体の活動を支援しました。

「超高齢社会を見据えた、在宅介護推進事業」	さぬき市 婦人団体連絡協議会	参加者 263名
超高齢社会を迎えるにあたり、介護のあり方や命との向き合い方に悩む人が増えている中で、在宅医療に取組む小笠原望医師による講演を通じて、性別を超えた先にある「人と人との絆の大切さ」を考える機会を提供した。		
「CATVで情報発信！」パート2 ～12人にひとりはLGBT. 生きづらい社会を変えなくっちゃ！～	いきいき市民の会「明風」	番組制作・放映
地方部でも性的な少数者(セクシュアルマイノリティ・LGBT)が社会課題の一つとして認識されるようになった中で、LGBT当事者をゲストに招いた番組の制作、さぬき市コミュニティ放送(CATV)での放映を通じて、多様性を認め合う必要性を訴えた。		
「男女共同参画の視点からキャリアを考える」出前講座	さぬき市キャリアサポート	中学生 252名(3回) ほか
さぬき市内中学校の職場体験学習の一環として「仕事カード」を使ったワークショップを実施し、次世代を担う子どもたちに、自分らしくいきいきと生きることが「将来の夢・職業」と深く結びついていることに気づく機会を提供した。		
「釧路族の末裔による国際交流事業」	おへんろつかさの会	参加者 72名
外国人遍路巡礼者が増加し、コミュニケーションに不安を感じる市民がいる中で、日本の大学で指導する外国人教員を招いた講演を通じて、市民の国際理解を深める機会を提供するとともに、参加者から「外国人をもてなすためのアイディア」を募り、外国人遍路巡礼者への対応のあり方を検討した。		
「映画から考える」 ～世界を男女共同参画の視点で楽しく学ぶ～	さぬき市友好翼の会	参加者 132人(3回)
市民の生き方や価値観が多様化する中で、「生きる」をテーマにした外国映画上映と意見交換を通じて、地域に暮らすさまざまな世代の市民に「男女共同参画の大切さ」を考えもらう機会を提供した。		